

特204

630

天神信仰と國民教育

附 浮世繪との關係を論ず

始



料 204
630



丹
繪
筆
者
不
詳



天神信仰と國民教育
附 浮世繪との關係を論ず

神戸積徳會理事 武岡豊太 講述

長い表題を掲げまして。複雑のやうに見えますが。佛教を通じて天神信仰が起り。これが國民教育の基礎となり。世界に比類なき。我國獨特の浮世繪が附隨して。發達致しましたといふ事に就き。申上ぐるのであります。

今や我國は。世界の三大國になりました。是は歴史の力と存じます。就きましては。他の二大國にも歴史が御座ります。それを研究して。今後我民族の進むべき標識を定めねばならぬと存じます。孰れの國にも各特徴があります。英國の權利を尊び義務を重んじ。耶穌教を奉じて博愛慈惠の念が發達し。古典を研究して習慣に従ひ。人格品性を修養せるが如き。又米國の自由思想が盛んにして。デモクラシー

といふことが。根本のやうに見えますが。堅き耶蘇教の信仰を抱きて。公德慈善の行はれ。秩序正しく敬愛して。開國以來の歴史を大切にする如きことを。他山の石となして。我民族の將來を研究し。如何にして此三大國の權衡を保つべきやに想到し。落伍せぬやうに考へねばならぬと存じます。此意味に於て。歴史より見たる國民の信念に言及致したのであります。

私は多年歴史風俗人情に關する浮世繪を研究して居ります。随つて浮世繪師の畫きました。天神様の掛物を數十幅所藏してをります。先年皇典講究所國學院大學が久邇宮殿下を總裁に奉戴せられました式場へ。當時の所長たりし一木宮内大臣さんの御依頼がありました。十數幅展觀して臺覽に供しました。此天神様の掛物が。學問と信仰との連鎖關係を保つ事から。御説明申上たいと存じます。

學問する所を寺子屋といひ。寺院即學校。僧侶即教師で。國民教育をしたものがあります。聖徳太子が大きい寺院を諸國に御建てになつたのは。勿論信仰をお勧めになる爲めでありますが。國民教育の爲めにお建てになつたものと存じます。故に

後世に至つて在俗の人で塾を開き。教授を始めましたも。寺子屋といふ。即寺である。その寺子屋の教育には。如何なる方法を取つたかと申すことを。お話しすれば佛教と天神との關係が明らかになると存じます。

生れて六歳になると。父母に連れられて。寺子屋に入門する。師匠に束修を呈して謁見し。よろしく御頼み申しますと挨拶させて。御辭儀をさせます。即ち菅原傳授手習鑑の四段目の通りで。其時師匠は。床の間に天神の掛物をかけ。三寶に御神

漆繪 石川豊信



酒と洗ひ米とお供へして神前に對坐し。子供に訓諭を與へる。今日より私の弟子にしやう。……………此弟子といふことも佛説より生じてをります……………。天神さ

まは學問の神様でありますから。拜みなさい。そして筆を大切に紙も大切になされ

文字を書いた紙は鼻を拭ふたりすることは出来ませぬ。天神さまは文字がお好きであるから。さういふ事をする。物覺にが悪くなります。明日から読み書きを教へて上げるから。よく天神様を拜みて上手になるやうになさい。懇に聞かされる。そして御神酒を下げ。師匠が先づ頂いて盃を下され。(素焼の土器二三滴唇が濡れる程)お供への洗米五七粒を神の青葉で抄ふて。手の平に載せて下さる。是で師弟の契りが嚴然と結ばれる。是を寺入りと申します。

月の二十五日は。天神様の御命日で公休日。今日の日曜日。此日は成るべくよき着物を着せてもらひ。神詣の心持で勇んで行く。師弟打揃ふて。天神様の掛物の前に一坐して。拍手禮拜し。師匠が音頭をなして。天神經を讀誦しお神酒を頂く。そこで正しき一種の信仰が起り。やがて高尚なる感情となりて品性が備る。一方で學問に依りて智識が發達し。相俟つて完全なる人格となる。これが佛教よりヒントを得たる。我國の國民教育の。宗教と學術とを并行せしめたものであります。

元來我國には。建國以來の信仰として。神ながらの道が備つて居たのであります。が。大陸より儒教と佛教とが入りまして。長い年月の間に。この三教が融合しまして。我國の教の大本となりました。

菅公は儒學に秀でた方でありますが。神ながらの道にも勿論篤く。また佛教をも信仰されました。丁度我國の教育上の。理想的偉人とするに。最適當なる御方でありませぬ。徳川時代は。儒教が最も盛んでありましたから。殊更に天神様は學問の神として。崇敬されました。神道佛教の両方面からも非難點がありません。そこで天神の信仰は。一層盛んになり。津々浦々に至るまで。其神社を見ない所はないやうになつたのであります。

かやうに天神信仰は。普遍的になつて居りますが。決して一朝一夕に。その盛を致したではありません。惟ふに其信仰は。菅公薨去後二十年。延長元年に官位を復せられ。正一位大政大臣の御贈位を賜はりし時に萌して居ると存じます。後十八年朱雀天皇の天慶五年七月。西の京七條のあや子といふ娘に御託宣あり。昔遊びし右近の馬場に。一祠を造り。立寄ることを得せしめよと仰せられしを以て。あや子

は柴の社を造りてお祭りしましたが。五年を経て天慶九年に。今の北野へ移されました。此年間には相馬の平将門の事變がありました時代であります。其後十三年村上天皇天曆九年に。天満天神と諡を賜はりまして。後三十一年華山天皇寛和二年七月に。御祭典がありました

紅繪 筆者不詳



菅丞相の廟に賽する願文を賜はり。其御文中に。

天満天神の廟に就いて。

文士を會し。詩篇を献ず

其天神は。文道の祖。詩

壇の主たるを以てなり。

と勅宣あらせられ。正しく學問の神様と尊崇せられました。其後十九年寛弘元年に一條天皇は。北野に行幸あらせられ。同九年に有名なる大江匡房卿の奉幣がありまして。其祝詞中に。

文道の大祖。風月の本主なり。翰林の人。尤も夙夜勤勞すべし。

と奏せられてあります。此時代より朝野北野とは申さず。聖廟と稱せられ。宮中御歌會などにも。聖廟奉納の歌と題せらるゝやうになりました。

降りて鎌倉の初期には。其信仰が深甚なるものとなつたやうであります。即ち今日北野神社に遺つて居る。鎌倉初期のもので。藤原信實の筆と傳へられる。根本縁起を始めとして。弘安年間に詞書の作られたと見ゆる。行光の筆と稱するもの。并に足利末の土佐光信。徳川初期の土佐光起などの。天神縁起が皆國寶になつて居ります。これは北野神社だけで申上ぐるものであります。他にも少くないので。山口縣松崎神社の天神縁起は。鎌倉末のもので。前田侯爵家の所藏のは。もと相州鎌倉の荏柄天神にあつたもので。これも鎌倉末の作であります。猶諸方にあるものは列挙するに違あらずで。以て其信仰の盛んであつた事が推察せられます。

又禮拜の爲めに作られた。天神の御像では。北野神社にあるお装束をつけた御坐像の繪がありますが。これと同圖のものが開口神社にもあります。足利時代に禪宗

が盛んになります。渡唐天神と稱する。唐服をつけ梅の枝をもたれた正面直立の御像が出来ました。これは菅公が無準和尚の許に参禪したといふ。夢想から書かれたものと存じます。

錦繪 渡唐天神 筆者不詳



また社殿の中に。装束をつけた天神をかき。其前に高麗狗や梅などをあしらつてあるものが。足利時代から徳川時代にかけて。極彩色に寫されたものがあります。是等は多く土佐派の畫家で。世に行はれたのは。其社殿中の天神でありまして。後に浮世繪師のかいた天神は。多く此圖に基いたのであります。

これを以て見ますと。浮世繪師のかいたのは。新に圖案したのでなく。これまで行はれて居る天神像を寫し。それを版に刻して。一般に普及させたものに過ぎないのであります。此以前には智識階級の一部では。立派な繪師にかかせて。禮拜して居ましたが。浮世繪師の手によつて版畫となつて。世に出すので。邊鄙の寺子屋までも行き亘るやうになりました。

紅繪 鈴木春信



是に於て。寺子屋教育に信仰の對象物が出来まして。厚い信念を起させるやうになつて参りました。實に浮世繪師の手に成つた天神像は。斯様に意義の深いもので。且其需用も極めて廣かつたのでありますから。原始

時代の丹繪。紅繪。漆繪が。既に掛物となり。奥村政信。石川豊信。西村重長。鈴木春信。の大家より。勝川春章。北尾重政。葛飾北齋。歌川豊國。安藤廣重等の名

錦繪 勝川春章



匠を始め。歌川國貞池田英泉等の幕末時代に及び。猶明治にかけても。惺々曉齋がかきますのみならず。十八年に小林清

親が。三枚續きの錦繪を出版して居り。其形狀に至りても。掛物繪はいふ迄もなく大版あり中版あり。小版。豆版。柱繪。短冊形等。初期より末期にかけて行はれました各様式を具へ。是等の天神像を展覧すれば。浮世繪の發達沿革歴史が判然と致しまして。其普及の程度をも推察することができると同時に。國民教化に及ぼした影響も如何ばかりであつたらうかと。如何にも有りがたく存ぜられます。

特に申上げねばならぬと存じますのは。明治時代の篤信者の事蹟であります。開拓使の判官であつたと承りました松浦武四郎といふ方が。天神を信仰せられ。各地を巡拜して。往還の側に道しるべの石を建てられました。現に須磨の綱敷天神道の如きは。警察署の東にある五十六銀行支店の前に残つて居ります。又聖跡二十五靈社順拜雙六と題する。帙入の木版一枚摺を發行して居ります。其題字に小野湖山七十一齡とありますので。湖山翁の令息に翁の享齡を聞きまされたれば。明治四十三年に九十七歳で歿せられて居りますから。七十一歳は明治十七年に當ります。前述の清親が三枚續錦繪を作りました時代であります。又明治三十五年二月八日。大阪毎日新聞の繪附録に。天満宮二十五拜まはり雙六と題するものを發行して居ります。松浦氏のご同巧異曲のもので。前者は第一番を菅原院とし。二十五番を北野とし。後者は第一番を北野とし。二十五番を太宰府としてあります。此外にもありまじやうが私の所藏するものでは右様に申上げられます。

ところが近來の有様を憤慨するではありませんが。智識と理窟とは發達するが。

品性人格。高尚なる感情。是はどうしても科學的では不可ない。其感情に對する教育がどうなつて居るかと申す事が。問題であると存じます。

武岡豊太は老境に入つて。寺子屋の昔噺を思ひ出したと笑はれるかも知れませぬが。これを先進文明國の教育法と對照して。其間に幾許の差があるかといふことを見れば宗教信念と學問智識とは並行して行かねばならぬといふことが。自ら判明すると存じます。私はまだ洋行を致しませぬので。直接外國の事情は存じませぬが。友人からよく承りますと。即ち日曜日にはなるべくよい着物を着て。心靜かに一家の老若が。耶蘇の會堂即ちお寺に參る。ヤット三四歳になつた子供に。神様を拜ませて靈的信仰を教へ込む。子供は不知不識の間にアーメンと唱へる。幼稚園に入る。小學校に學ばせる。英國の劍橋大學の如きは。習慣を重んずる所でありますから。古い建物を其儘保存してある。教場といふても實にお粗末なもので。我國のやうな立派なものでないとのこと。是が世界に有名なる大學校の教場かと思はれるやうであります。其代表的なものを何かと申せば。日曜日に學生の參る耶蘇の會堂

であるといふ。かく大學まで宗教を連れて行く。そして品性の陶冶と智識の向上とを計つて行く。其所で權利を重んじ義務を重んじ。公德慈善の念が旺盛となつて。學校は紳士を作る所で理窟を並べる所でないとなる。我寺子屋の教育法とどれだけの差等があるか。よく考へて見たいと存じます。

近時我國の學校では。宗教との連絡が次第に離れるやうな感があります。我國一千餘年間に習慣づけられましたところの。寺即學校。僧侶即教師。學校に入りますのを入門といひ。教師生徒の關係を師匠弟子といひ。學校から退くことを退門といひ。不都合なものを放校することを破門といふ。悉く佛語より出でたるもので。入門退門破門等はありませんけれども。根底よりしてサボターシユやストライキは無かつたのである。何故に無かつたかといふと。是は信仰といふものを以て。師弟の情誼が堅くなつて居ります。七尺去つて師の影を踏まずといふ尊敬の念があつて。精神的に心の底より實行されて居つた。故に門弟即弟子が學問をいたしますものに。其師匠の言行を見習ふ。又師匠は自ら謹慎して軌範を示す。これが人の師範たること

ころの根本である。儒教で申す忠孝仁義の道も。我國古代よりある祖先崇拜のこと
も。因縁因果の道理も。たゞ口先ばかりでは感化が薄い。其範を示して身を以て率
いる。かくの如くして。宗教と智識。いひ換ふれば高尚なる個人の感情と品性が出
來て。人格が養成せられたのであります。

要するに修身といふことは。一課業としての修身書では徹底しませぬ。先進文明
國では修身書がないそうでありまして。耶蘇會堂即修身教場で。牧師即修身教師で
あると聞いて居ります。

年を取りました者は。廣き意義に於ける教育者指導者とならねばならぬ事と存じ
ます。近時思想の動搖といふことを。非常に心配する人がありますが。私は歴史に
照して安神して居ります。なれども教育の忽かせにすべからざることには。充分の
注意を拂ひたいと存じます。そこでどふしても佛教とは離れることがならぬと考へ
られます。

私は佛教のことに就いては。深い意味は存じませぬが。戒といふことがある。即

ち戒めであります。心に三、口に四、身に三、の十戒が大切なるものとなつて。次
ぎに謹慎といふことになる。心を慎み。口を慎み。眼に耳に身に節度を加へる。次
きに禮といふものが起る。此禮といふは儒教の眼目となつて居るが。我國の古い言
葉では。イヤビと申して。ウヤマウの意味で。尊敬といふ事になります。神を敬ひ
佛を尊ひ歴史を尊び祖先を敬ひ親を尊び物を尊ひ己の身体を尊ぶといふ。尊敬心が
起る。此尊敬よりして信念が生ずる。その上に信仰といふものが出来る。茲に至り
て天神様が出顯せられるところで。彼も人なり我も人なり。同じ人間だとなりませ
ぬ。尊敬といふことが取除かれて來る。これが大切なことである。そこで。戒、謹
慎、禮、尊敬、信念、信仰、斯ういふやうに。重きを置くといふことは。須臾も忘
れてはならぬと考へる。

若し此身体から。尊敬といふことを取放して仕舞ふたら。我儘勝手がデモクラシ
ーと考へて。佛教で所謂餓鬼畜生の如きものになつて。假令飽食暖衣するも。心中
に饑餓を生ずる。かくなれば人間は獸類よりも危険になる。何となれば獸類には慾

望といふものが少ない。腹がすかぬやうにさへしてやれば。ライオンでも鞭一本で自由に操ることが出来る。人間には慾望が澤山にある。人に尊敬心を失へば。獸類よりは危険の程度が餘程多い。畢竟禮を以て此慾望を抑制するのである。聖徳太子は憲法に「禮を以て本とし。君臣禮あれば位次乱れず。百姓禮あれば國家自ら治る」と仰せられてあります。斯様に考へ及びますれば。佛教を離れては高尚なる感情が覺束ないに存じます。

諸神様のことはどうなるかと申すに。神は惟神にして。三千年の大歴史を有して居り。大和民族の先天的傳統的に。尊敬し奉ることは申すも畏き譯柄であつて。神佛は恐れながら夫婦關係と考へらるるのであります。

聖徳太子が佛教をお勧めになつて。日本的佛教を作りあげられました。其後種々に宗派が分立致しましたが。其根元たる大和法隆寺の。御佛事を拜見いたしますと先以て御祭壇に。天神地祇皇室の御歴代を御勸請申上げ。次ぎに如來菩薩の佛陀を御招請申上げて。經文を讀誦するといふことになつて居る。勿論境内には神社が祀

られてある。京都の清水觀音の地主權現。高野山の高野神社の如き例は澤山にあるこれが佛教の民族的に位置を占めたる基礎であらうと存じます。

それで神社と寺院とはどうしても離れることは出来ない一例を申上ぐると。奈良の春日神社は。藤原氏の佛壇である。興福寺を建立して。祖先を祭祀せしが。今日の春日神社である。男山の八幡宮は六百年前。僧行慶が夢のお告げを蒙り。宇佐より御勸請申上げた。故に八幡大菩薩と稱せられた。昔より普及的に床の間に掛けて禮拜致しました三社の神號の掛物がある。中央に天照皇大神宮。右に八幡大菩薩。左に春日大明神と配されてあります。全く神佛御一体の信仰であると存じます。

謹みて歴史を按じまするに。伊勢の太廟は。戰國時代に世の中が乱れ。精神の混亂した時分は。大臣よりも將軍よりも。御修繕が出来なかつた事がありました。それが今日の嚴然たるを拜するは。國体の辱きに基くことは勿論であるが。佛教が與つて力あることで。今猶風の宮へお参りする橋の擬寶珠には。僧侶の名を刻した金石文があります。太廟に御奉公せられました尼僧に。明治天皇御贈位を賜はりました

た。これ位國民性に佛教が浸潤して居ります。

近頃安定といふ熟字を用ゐるに。生活の安定といふことが。流行のやうに見えますが。私は心の安定が第一と存じます。元來心は無形にして。コロコロ轉がるもので。語原に溯れば。コロコロ即ちコロコロでありまして。縛ることも押さへることも出来ない。これを安定させるには。信念といふ志が大切である。志といふ文字は是も亦語原に溯れば。士の心即士君子士太夫の心となる。士は義に依つて進退する正しきものであるから。志は正しきものとなる。此志を起すことが。所謂精神修養となるのである。



茶 繪 奥村政信

天神様は此志を和魂漢才と仰せられた。日本の魂で唐の才を持つてよとなる。これを今日に引き伸しましたら。和魂洋才となる。天神様の時代は。唐は吾々の先進國であつた。今日は我國が先進國になつたから。漢才では事足らぬ。とふしても洋才でなくてはならぬ。

天神様が今日にあらせられたならば。必ず和魂洋才と仰せられたと拜察する。聖徳太子も耶蘇教を御存じなかつたから。神儒佛三教を調和融合なされたなれども。今日にあらせられたならば。神儒佛耶の四教と仰せられたことも。拜察するに躊躇致さぬ。必ずや。博愛公德慈善といふことを。和魂の中へお取入れになつたに相違ないと思ひますが。遺憾ながら御時代の知見か。支那印度に限られて居たから。神儒佛、和魂漢才と仰せられたと存じます。

然るに神道佛教の方面では。耶蘇教を外來教として。厭はれる傾向が今猶あるやうで。是は甚宜敷ない事と思ふて居る。他を傷けば又吾を傷けられることは自然の道理である。人心を指導して行く者は衝突しては不可で。互に提携すべきである。

佛教者と雖決して耶蘇教を厭ふべきでない。それには矢張歴史を考へて見ねばならぬ事がある。三百年前に入つて來た耶蘇教は。激烈にして西洋の宗教戰の再演をなした。長崎附近に於ては。此教徒は神社佛閣を破壊して會堂を建てた。これは國情に適せぬから討伐の止むを得ぬこととなつた。これが神道佛教から厭はるゝ因をなして居ると思ふ。又明治の始めに耶蘇教を信する人は。西洋かぶれとても申さうか洋魂洋才が賢いと考へ違ひをして。楠公へ參つても。如何にも忠臣であらうが自殺はよくないなどといふ風が見えた。是は畢竟偏するからである。近來の態度は國情に合つて來て。國体より考察して尊敬脱帽するやうになつた。かくして耶蘇教は日本式に進んで來た。然らば神儒佛の三教とは差違がなくなつた。相提携すべきであつて。衝突排彈すべきではない。是は私の一家言でございます。

右申上ぐるが如く。和魂漢才が和魂洋才となり。神儒佛が神儒佛耶となりまして皆我國民性と合致しました以上は。彼の長を取り我短を補ふて。世界の文明を咀嚼吸収して。心の安定となりますからには。社會主義でも己人主義でも研究して。何

等差支ない。轉々轉がる心がきまつて居るから。國民性は國外へ逸出せぬ。これが今日以後に於て大和民族として。今日よりも一層大を爲す所以であると思ふ。聖德太子の憲法に。「人甚だ惡しきものなし。これに教ゆればよく従ふ」と仰せられてある。此ありがたき御遺訓により。よく教へて戒を保ち。精神修養をする。是が既に申しました。廣き意義に於ける教育者指導者の任であると存じます。

歴史は繰り返されて居る。文野の分岐點は歴史を尊重すると否とにある。而して野蠻未開の民族には歴史がない。高等の民族程歴史が詳細にして。且これを尊重する。前述の如く。英國の古典を大切にすることは申す迄もなく。自由主義の米國人か。僅か二百年ばかりの歴史を尊重すること想像の外にある。仮令へば始めて牧師が説教をした教會堂を。オールドミッションといふて非常に尊敬する。ワシントンが馬上で軍隊を指揮した所といふて大切にす。何々條約を締結した建物だといふて保存する。それは形式ばかりでない。心の底から深厚なる敬意を拂ふてをる。近來我國では歴史や史蹟を閑却する流弊があると思ふ。私は明治維新に貢獻せられた

勤王志士の事蹟も心掛けて居りますが。皆歴史研究から志を起し。忠君愛國の至誠となつて。一身を報國に盡され。美名千歳護國の神とられて居る。最近に政治の倫理化といふ言葉が。識者の唱ふる所となりました。是は新しい熟語のやうに見えますが。古き歴史に還元するものご存じます。古今東西に於て國の善政は。正しき倫理道德の上に行はれるものであります。されば私は更に教育の宗教化と對したい人物を作るには。宗教を教育から離すことはならぬと信じます。

錦繪 北尾重政



それで天神様のお嘶に戻りますが。天神といふことは天津神といふことで。天の神様である。菅原道眞公を天神とあがめられたのは。佛者の信仰である。大自在天満宮の大自在といふことは。佛語より来て居る。御生れ年が乙丑であるから。經文にある。大自在天神乗白牛と一致して。天の神の御化身權化として學問の神と尊ばれた。源頼朝が武藏野に於て。菅公牛に乗つて來られたと夢に見て。醒むれば傍

錦繪 安藤廣重



に牛の形の石があつたといへることも附加されて。菅公と牛との因縁となり。天神

の社に牛を置くことが盛んになりまして。繪畫の上にも顯はれてをり。随つて信仰を増進する。現に全國に祀られて居る天神の社は。官幣社二。府縣社三十。郷社百九十三。村社三千九百五十三。無格社約七千。合して一萬二千九百何十といふ天神様が。國民教育の神として御鎮座なされて居る。取りも直さず是丈の數の教會堂があるのと同じ事である。

而して此天神社には。天神様より先きに他の天津神。國津神の御座る所が多くある。近い例は須磨綱敷天神である。菅公が筑紫御下向の途すがら。此濱へ御着船になつた時に。浦人が綱を敷いてお迎へしたのが。諏訪神社の境内である。此神は所謂國津神。出雲の武御名方命様で。今猶嚴然として此地の産土神と祀られてござる。又京都の五條の天神といふ有名な社がある。桓武天皇御遷都の際。御勸請の鎮護の神で。昔は天使社と稱せられた。御本殿は天津神。少彦名命様で。天照大神。大己貴命が。御相殿に御座る。天神様は末社に祀られて御座るが。五條の天神となつて仕舞ふた。菅公即天津神の御化身といふことがはつきりと判る。今一社を申上ぐれ

ば。住吉の奥の天神で。神功皇后が應仁天皇を祝福あらせられて。石を御靈代とし

錦繪 池田英泉



伊勢奥大圖撰寫
漢青共東画監臨

てお祀りになつた古き神社で。御祭神は五條の天神と同様。少彦名命様であらせられ。足利の中世に大自在天満宮を合祀し。紅梅殿をも造營せられた。此御社は今の大阪市住吉區大部分の氏神で。大阪の道修町の藥種商の信仰が厚い。是は道

理あることで。少彦名命様は。醫藥を司り賜ふ神様でござる。此例は各所にあると思ふ。

斯様なる天神信仰に就ては。あまたの研究を進めねばならぬと存じて居ります。前に申上げました天神經のことで。天神祭りに口から口へ傳へられ。言葉が残つて文字はなかつた。私の舊友に寺子屋の師匠をなされた故老に尋ねて見ましたら。口ではいふことが出来るが。文字は知らぬと申されますから。其口誦を和尚に謀り。文字を書いて見ましたれば。立派な天神經が出来て。再び成文となりました。

所が両三年前。越後出身の友人。平澤勘吉氏が。歸郷巡遊中。同國三島郡上富岡の。田中清次氏の匣底より発見したとの事で。折本に印刷した天神經を贈られました。其後又大阪天王寺常磐通一本松の竹匠木下翠香氏方でも発見して。幸ひに割愛せられました。今は二部を藏して居ります。以前に口誦を聽きて成文としましたものと。大同小異であります。

最後に浮世繪天神像の。歴史作者年代を御説明致し。天神經を讀誦して。結論と

致します。

浮世繪の版畫に掛物繪と稱するものは。半紙形を豎に二枚繼ぎとなし。表具を加へて掛物となし發賣せしもので。人物景色花鳥魚介等各種あります。廣重の猿橋の如きも其一でありまして。天保十三年に此掛物の價が僅かに錢三百文と傳へられ。唯今では歐米各國に於て。日本獨特の藝術。東洋第一の風景畫と稱賛せられ。米貨四五千弗の價値を有するものとなりました。

錦繪 歌川國貞



此掛物繪といふことは。天神の御像と重大なる關係ある名稱と考ふるのであります。何となれば他の各種の掛物繪を作りますのは。天神御像の掛物を作りましたことより思ひ付いたものと考へられまして。両々相俟つて浮世繪版畫の發達を遂げたものと思ひます。

抑版繪の初期は。江戸時代の初世にあつて。寛文延寶元祿を中心として見れば大差はありませぬ。當時世の中に現れました版繪は。墨摺。丹繪。漆繪といふ順序になつてをります。墨摺は墨の一度摺でありまして。其墨摺の上へ毛筆を以て丹の色を加へたものを丹繪といひ。濃厚なる墨色を現はし黒光りに光ること漆の如きものに致しましたものを漆繪と稱し。其後色版で色を摺り出すことを發明し紅を主色として黄や緑を配合することになりました是を紅繪と稱します。此技術が進みまして明和元年鈴木春信といふ大家が。各種の色彩を印刷して錦の如き美しきものを作りあげましたので。錦繪の名を得ました。其以後名匠輩出し爛漫たるものとなりましたが。春信の錦繪以前原始時代に於て。天神の御像を掛物とせしものが嚴存して居

ります。

委敷甲上げますと。原始的丹繪の御像は筆者が判りませぬが。正しく浮世繪師の筆に成つたものであります。

○奥村政信は漆繪であります。元祿三年に生れ。明和五年に七十九歳で歿した。原始的名匠であります。

○西村重長は紅繪で。元祿十年生。寶曆六年に六十歳で歿した。有名なる作家。

○石川豊信は漆繪で。正徳元年生。天明五年に七十五歳で歿しました。門人に歌川流の元祖豊春を出しました。有名なる狂歌師宿屋飯盛の親で。日本橋の旅宿業糠屋七兵衛が本名。

此人の作つた松下座像の天神の大版は。長二尺八寸幅一尺二寸もあり。墨一度摺りに毛筆を以て彩色を加へた掛物があります。是は大版と稱するものゝ標本と思ひます。

○鈴木春信は紅繪であります。此人は唯今申上げました錦繪を大成した名匠であり

まして。歐米人の研究に春信を劃線とし。其前後と區別せらるゝ大家で。享保十年生。明和七年に四十七歳で歿しました。

○勝川春章は錦繪で。春信の創作を受けた人で。享保十一年に生れ。寛政四年に六十七歳で歿した。門人に世界六大畫家の一人葛飾北齋があります。

○北尾重政も錦繪で。此人の弟子に山東京傳。窪俊滿。歙形蕙齋。といふ三大文士の畫家を出しました。元文三年に生れ。文化二年に歿して。享齡八十二とあります。以上は皆世界的浮世繪の大家の作品で。既に申上げました幕末より明治にかけ。其十八年まで天神像が畫かれてをり。御面貌を拜すれば時代時代の人情をも表顯せられて。温和豪壯の變化があります。

此掛物が江戸土産となりて。全國の寺子屋の天神祭りの御祭神に掲げられ。又學童の勉強室にも掲げ。信仰の標識と尊崇せし一方には。人物花鳥等の掛物繪が。觀賞愛玩の料となりて並び行はれ。江戸繪の發達となり。僻陬の山間孤島までも行き亘つた譯と存じます。

されば現今世界的に。我邦特有の藝術品として稱賛せられてをります。浮世繪版畫の發達進歩せしことは。國民信仰の天神。佛教を通じての天滿自在天神の偉大なる徳化の賜物であると考へられます。謹みて天神經を讀誦いたします。

天神經

如是我聞、一時佛在、菩提王、八萬四千、寶藏金剛、般若波羅蜜多、第一梵天王、第二帝釋、第三閻羅王、釋迦牟尼佛、三千大千世界、廣大福壽經、一切諸佛、奉行禮拜、供養慧妙受、菩提王、一切明神等、三千大千、世界供養、聖說奉行、南無實道權現娑婆訶、

318
105

昭和三年四月一日印刷
昭和三年四月五日發行

編輯兼
發行人
神戶市西須磨上ノ町壹番地
武岡豐太

印刷人
新郷謙造
明石市東仲ノ町千番地ノ一

印刷所
明石合同印刷株式會社

終